

内容上の事前準備は会話参加をどのように促し支えるか —中国の日本語専攻大学生を対象とした会話活動におけるやりとり分析から—

秦 松 梅*

How does content-based before-class preparation facilitate participation in class conversation: Findings from Conversational Exchanges of Japanese Major Students in China

QIN Songmei

摘要

本論文は探索内容重視日本語会話課の活動方式を目的、在中国大学日本語专业3年級の会話課前導入した内容上の事前準備。并以学生们在参加会话的过程中，内容上的事前準備是怎样促进并且支撑整个会话为课题，用教室谈话分析的方法进行了质的分析。结果学生们以事前準備所查找出来的素材为资源，通过积极的灵活运用，取得了发言权、提供了话题、并引导出大家的力量和来自日本的留学生们一起以对等的方式进行了讨论。

Keywords: Conversation Education, Content-based Instruction, Conversation Authenticity, Preexisting Knowledge, Conceptualization

1 はじめに

グローバル化の進む現代社会において、人的交流がますます頻繁になり、コミュニケーション力が注目されるようになった。大学の言語教育においてもコミュニケーション力の養成が重視されるようになり、大学教育における会話授業の目標¹も仕事や日常における実際のコミュニケーションにすぐ役に立つような日本語力を身につけることとされている。しかし、中国の大学で日本語教育に携わる日本語教師を対象とした質問紙調査によると、会話の授業では、暗記や翻訳、繰り返しなどの活動が頻繁に行われているという（長坂・木田2011）。このような会話活動では、学習者は、単語と文型を使ってミスのない会話をすることに集中しがちで、学習者の既有知識²を活用して自由に会話を創造するという経験は得にくくなる。また、学習者が語った内容は真正性³に欠け、自身との繋がりが薄く、言語と思考が結びついていないという問題を抱えている。そこで、本研究ではこのような中国における会話教育の改善に向けて、内容重視の日本語教育に注目する。実践研究を通して、内容重視の日本語専攻会話の授業の可能性を探り、中国の日本語会話教育のあり方について示唆を得ることを目的とする。

従来の内容重視の言語教育は、ある特定の内容と言語教育の目的とを統合することである（Brinton, Snow, & Wesche1989）。例えば大学の科目と第二外国語のスキルを同時に教えることを指している。一方、本研究で取り上げる内容重視とは、言語教育を言語以外の諸教育のカリキュラムと相互交流させることによって、言語の学習以外の学習と言語学習との統合的学習を成立させることを目指すものである（岡崎1994）。つまり、学習者のバックグラウンドや発達課題、社会的課題などから内容⁴を選び、その内容を理解し学ぶために、第一言語をはじめとする既有知識の助けも得ながら第二言語を使用する。思考過程で得られた情報を解釈したり、評価したりするという言語使用を通して、さらに思考を深める。言語は思考の手段であり、思考は言語使用を促す。思考

キーワード：会話教育、内容重視、真正性、既有知識、概念化

*平成23年度生 比較社会文化学専攻

と言語の相互交渉を促すことが目指される。そこで、本研究では、会話テーマとしては人が生きていく上で最も重要な内容「食」を取り上げ、そのテーマを予め与えて教室外で内容上の準備を十分させた上で、授業においては日本語母語話者も含むグループになって議論を行うという形式の会話活動を行った。そこからデータを収集して、当該活動の可能性を探るために二つの実践研究（秦（2012）と本研究）を行った。まず秦（2012）として、当該活動終了後に行ったインタビューの文字化資料をデータとして修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（木下2003、以下M-GTAとする）を援用して、学習者にとっては新奇な学習経験である今回の会話活動に対してどのような評価が形成されたかを探った。その結果、普段の会話活動との対比において、今回の活動では質の高い日本語会話活動ができたとして肯定的な評価が形成されていたことが分かった。本研究では、このような肯定的評価がどのような会話活動参加を通して形成されたものであるか、具体的な活動中のやりとりをデータとして探ることとする。

2 先行研究

当該の会話活動は特に中国人日本語学習者にとっては新奇な学習経験であると言える。しかし、秦（2012）で明らかになったように、その新奇な学習活動に対して学習者は肯定的な評価を形成していた。何故肯定的な評価を形成したのか。この問いに関係すると考えられる二つの先行研究を概観し、本研究の具体的な研究課題を導く。

楊（2010）は、中国の大学における日本語の専攻主幹科目である「精読」授業（翻訳タスクと会話タスク）の受講生を対象として、直接的にはグループワーク（以下GWとする）導入の可能性を探った研究である。しかし、楊の結果からは、事前準備の重要性が示唆された。翻訳タスクにおいて受講生は母語の文章に基づいて各自事前課題として家で翻訳をし、議論したい点を決め、問題意識を持って、授業中のGWに臨んだ。事前課題を準備したことで、受講生は、教室での活動で、既有知識を統合して使うことが可能となり、日本語の正しさに配慮する余裕を持ち、より質の高い日本語⁵使用が促されていた。それが肯定的な活動評価に反映されていると考えられる。一方、会話タスクにおいては、使用言語は主に日本語で使役受け身の文法練習を中心に行われた。学習者が暗記してくることを防ぐために、事前課題は課さなかった。この会話タスクについては否定的な受け止めがなされていたという。楊（2010）の会話タスクにおいては、学習者は、言いたい内容を創造すること（概念化）、それを日本語という言語の形式に当てはめること（言語化）、最後にその言語で許された音声のつながりとして表出（＝発音）すること（発音化）の三つの過程（岡崎他2001：78）を即時・同時に進めなければならず、学習者にとっては負担が大きいタスクだったと考えられる。即ち、日本語力に制限のある学部一年生にとっては、自分が言いたいことを言うのではなく、日本語で言えることを取り敢えず言うということになったのではないだろうか。その場合、大学生としての知的レベルに合致しないばかりか、間違ってもいいからこれまで学んだ日本語を総合して言いたいことを言うという言語学習にとっては重要なリスクテイキングなどのストラテジーを使うこともなかったと考えられる。つまり、学習者にとってはせっかくグループになって創造的なやりとりができるはずなのに、それはできず単純に語彙と文型を組み合わせた文を口にするのみとなり、フラストレーションがたまったことが推察される。同じように事前課題の重要性を指摘した音声教育の研究房（房2011）がある。房（2011）では、学習者はGW（房ではピア活動と呼ぶ）に参加する前の事前準備（房では一人学習と呼ぶ）として、「発音学習日記」をつけることが課された。授業中のGWにおける学習者間のやりとりを時系列に沿って観察し、事前準備の際に得られた言葉が学習者の認知過程をどのように支えているか、談話分析を通して分析した。その結果、事前準備の過程で得た言葉はGWで意見を述べやすくする効果を生み出し、知識の単なる寄せ集めではなく、やりとりの中で深まり、精緻化し、新たなものが生まれるきっかけとして機能していた。また、事前準備で得られた知識が学習同士の説明構築によって豊かになっていく過程が見られた。それは、事前準備で得た言葉が用いられることによって、言葉はグループ成員の認知過程を支える役割を果たしていたことが窺えた。

これらの結果から見て、肯定的に受け止められた楊（2010）の翻訳タスクと房（2011）のピア活動の共通点は事前課題を行ったことである。事前課題によって概念化が促され、授業における高度な日本語使用を促し、活動が効果的に行われたと考えられる。本研究が研究対象とする実践では、特に内容上の準備を十分した上で、授業での会話活動に臨む形式になっている。即ち、会話授業を行う前に学習者に会話の内容と関連性がある資料を

調べたり、自身の主張などを整理することで、概念化の作業を終わらせたと言える。そして、授業中の会話活動では、日本語でどうかという点での言語化と発音化に注力することが可能となったのではないだろうか。したがって、内容上の事前準備したことによって、授業当日の会話参加が促され支えられるという成果をあげ、そのことから、肯定的評価が形成されていたことが推測される。

3 研究目的と研究課題

本研究では、中国の大学の日本語専攻会話授業における内容上の事前準備を取り入れた内容重視日本語教育の実践を通して、中国の日本語会話教育のあり方への示唆を得ることを目的とする。以下の研究課題を設けた。

研究課題：中国の大学の日本語専攻会話授業において内容上の事前準備は学習者の会話参加をどのように促し支えるか。

4 研究方法

4-1 実践の概要と流れ

データ収集のための会話授業は、中国黒竜江省A大学で2011年5月中旬から6月4日まで週一回（2コマ120分）、合計3回筆者が行った。授業参加者はA大学の日本語専攻3年生17名（JLPTのN2に合格、女性16名、男性1名）と、中国滞在期間半年から一年の日本語母語話者（中国語学習を目的とする日本人留学生）3名であった。日本語母語話者は同省B大学での筆者による募集に応じて参加した（3名とも男性）。参加者は日本語母語話者も含めて、接触場面での日本語によるやりとりを通して両者が直面している「食」に関わる諸問題をともに考え解決策を探ることが期待された。当時、中国では、国内外の食に関するニュースが頻繁に伝えられていたこともあり、学習内容は、食をめぐる事件、食の安全、食のスタイルという三点から選定した。以下は授業の流れである。

毎回の授業を開始する前に事前課題を与えた。具体的には、学習者全員に会話のテーマを与え、関連する質問をいくつか用意し「事前準備シート」として配布した。加えて、これら三つのテーマに関連して各自が主張したい内容についてインターネットなどを使って調べることを課した。授業当日は、学習者を3つのグループに分け（日本語母語話者が各グループに入った）、対話的問題提起学習⁶の方法で議論が進められるように質問を書いたワークシートを配った。学習者は、各自自分が用意した事前準備シートを適宜参照しながらワークシートの質問の順番に沿って話し合った。その後、話し合った内容をグループ内にまとめてポスターを作製し、ポスターセッション形式による発表、仲間同士と教師によるフィードバックを行った。最後に母語で振り返りシートを記入し、次の連絡をした。この流れは毎回同じように行った。なお、学習者が書いてきた事前準備シート及び振り返りシートは毎回回収した。

4-2 データと分析方法

本研究では、授業で回収した事前準備シート及び参加者全員の承諾を得て録音し、文字起こしした授業中のやりとりをデータ⁷として用いる。分析する際には振り返りシートも参考として用いた。分析は教室談話分析の手法を用いて質的に分析する。

5 結果と考察

5-1 授業中における会話例

本研究は中国の大学日本語専攻における会話授業において内容上の事前準備は学習者の会話参加をどのように促し支えるかを探るものである。以下では、この課題に答えていると考えられる事例を二つ取り上げる。その際、事前準備としては、事前準備シート⁸の記述内容を、当日の会話参加としては、会話例を相互に関連させながら提示する。会話に参加している学習者の名前はすべて仮名で表記した。

秦 内容上の事前準備は会話参加をどのように促し支えるか

(1) 発話権を取り、自分が考えてきたことを自信を持って述べる

会話例1：事前準備の質問でもあり、授業当日のワークシートにも提示されていた質問「食品に関する新聞やニュースの中であなたにとって特に印象深かった食品の事件にはどんなものがありますか。」に沿ってなされたやりとりである。中国で起きた乳児用粉ミルクにメラミンという添加物が入っていたという事件について話している。事前準備シートに記入することを通して予め概念化しておいた内容を授業中のグループによる会話に持ち込み、自信を持って自身の主張を述べている点に着目した。

順番	仮名	発話
507	石井	長い間を売れるように、その（粉ミルク）の業者が添加物を入れた。
508	付	でも、全部添加物じゃない。
509	張	この紙で書いてください。
510	付	いいや、後で。TVで放送した、そのバナナは価格が落とす。降价怎么说？ 【訳】：降价を日本語で何て言ったらいいですか。
511	楊	下がる。
512	蔣	値段が下がる。
513	付	7元から2元まで（価格が）下がる、実は噂だけど、その添加物を入れて、TVで放送して価格は下がる。実はその添加物はいいです。実は体によくないことがないけど。しかし、そのバナナは、農民は木で取りましたから。买不出去。（【訳】：売れない）売られない。
514	石井	売れない。木で取ったから、売れない？
515	付	木で取ったから、売れない。
516	石井	何で、木で取ったから売れない。
517	楊	どうして？
518	付	因为里面放的添加物都有照片或是被录下来了，大家以为是有害的，但是实际上这是没有害的。都是经过检测好的。 【訳】：添加物の写真や映像を取られたせいで、皆が有毒だと思い込んだけど、実は有毒じゃない。全て検査されて安全だとされた添加物だから。
519	如	だから、値段は下がるよね。
520	付	実際は、あの一民意の強制ですよ。
521	#	民意？
522	石井	凄い、何だろう。文章、本の中で使う。
523	付	実際は普通の話から何ですか。
524	石井	民意の強制ってこの強制（「強制」を書く）？
525	蔣	強引？
526	石井	意味がよくわからない。国民の一
527	付	国民の意見が世論の不良を導く。
528	石井	世論を導き、悪い方に導く。
529	付	そうです。農民の利益を損する（損なう）。
530	石井	だから、添加物は別に体にはよくないことではないです。
531	如	体によくないことはありますけど、さっき、言った添加物は体によくないではない（悪いわけではない）。
532	付	そう、そうです。

会話例1では、授業に先立って授業の準備として調べ記入した内容を付の事前準備シートから窺うことができる。付は、事前準備のためにいろいろ調べて行くうちに、全ての添加物が有害だということではないことに気づいており、授業ではそのことを自分の意見として発言したいと思って授業に臨んでいた。「安全担忧过滤，舆论的不良引导」、「自分の意見を民意と偽って強制する」などの記述に注目したい。これらの記述から付が食品安全をめぐる自分自身の考え方を持っていることが窺える。乳児用粉ミルクのような事件が起きると、消費者は、

添加物は全て害があると考えがちである。そのため、会話の中でグループの仲間の意見が添加物反対一色ようになっていた。そこで、付(508)は、発話権を取り(「でも」)、添加物は全てが有害なわけではないと発言し、異論を唱えた。さらに、実際に起こったバナナの事例を取りあげ、補強した。付(513)はマスコミが過剰な使用を行っていない無害の促進剤の映像を無責任に報道したため、風評被害を招き、海南島バナナが大暴落する事態が起きたと話した。これは、仲間に新しい視点を提供したことになる。しかし、付(513)は事前準備シートに書いた「食品の安全に心配しすぎる、世論の不良導く(世論に悪影響を与える)」という部分をもとに発言したのだが、完全に日本語で表せなかったため、「木で取ったら、売れない」の意味が伝わらなかった。石井(514)、楊(517)が「木で取った」とは何のことなのかを畳み掛けて質問した。それに対して、付(518)は日本語で説明することはできなかったが、日本語母語話者が中国語も分かることを生かし、母語の中国語を活用して調べてきたことを回答した。つまり、無害の促進剤を使った木からバナナを収穫したのだが、写真などを撮られてマスコミに報道され、皆が有毒だと思い込んだため、売れなくなったということである。この時、付(520)は、単に促進剤は有毒かどうかのみではなく、事前準備シートに書いた「自分の意見を民意と偽って強制する」の箇所で、強圧的に報道するマスコミは無責任であると伝えたかったと考えられる。しかし、「民意」という言葉は書き言葉であり、日常生活ではあまり使われない語彙である。そこで、付(523)は話し言葉では何と言うのか、自ら仲間に助けを求めた。付(527、529)は事前準備した内容を活かして発言し、また仲間の発話から得た語を取り込んで自分の考えを明確化していた。マスコミの無責任な報道で国民の意見が悪い方向に導かれたため、農民に打撃を与えたというように日本語で説明できた。石井(530)、如(531)が付の発話を受けて言い替えたことにより、付(513)は仲間に対して「全部が(有害)添加物じゃない。」と発言したことの理由を述べる事ができた。

当時、中国で報道されていた食品事件はそのほぼすべてが添加物に関連しており、全ての添加物が有害だとし添加物を全否定する考え方が一般的になっていた。しかし、学習者付は細かく食品次元を調べる中で、このような一般的な考え方とは異なる意見を持つようになっていた。付は自分のこのような意見に自信を持っていた。つまり、自分の主張したいことがはっきりしていた。そして、自分の意見を積極的に述べることで最終的には仲間を説得することができたという経験を得たと言える。付は、考え方が他の学習者と異なった時などはあまり発言しない学習者である(筆者のインタビューより)。しかし、内容上の事前準備を通して、自分の主張したいことが明確になっていたため、付のような学習者であっても自分の言いたいことを堂々と述べ、会話に積極的に参加できたと考えられる。

(2) 話題を提供し、仲間の力をも引き出しながら、日本語母語話者とも対等に議論に参加する

会話例2は、ワークシートの質問「食品問題が起こった原因は何だと思いますか。」に沿ってのやりとりである。ここでは普段から学習者の頭の中にあっても、授業などであまり議論することがない社会の問題が取り上げられている。学習者は、そうした社会の問題について話すための日本語に慣れていないのだが、仲間と協働でやりとりを進めた部分に着目して抽出した。なお、やりとりに出てくる農産物の倉庫の管理者は、日本の全国農業協同組合連合会(JA)に近い権限を持っている。食品の問題の原因について学習者が生産者と消費者の立場で話し合った後、寧がターンを取ったところから始まる。

順番	仮名	発話
149	鈴木	生活習慣悪いため、原因は何ですか、原因は何々のためです。
150	寧	例えば、農産物、農民たちは作った後、うん、 <i>粮库</i> ⁹ 怎么说? 【訳】：穀物倉庫は日本語で何と言ったらいいですか。
151	如	うん、貯まる倉庫。倉庫に運びます。
		中略
154	#	管理者？
155	寧	管理者はお金をもらって、よくないものを・・・ <i>就是收钱，把那些不好的东西也给接收了，怎么说？</i> 【訳】：つまり、役人は農民からお金を受け取り、農民が運んできた品質が悪いものまで引き取った。このこと、日本語で何と言ったらいいですか。

秦 内容上の事前準備は会話参加をどのように促し支えるか

156	鈴木	管理者はお金をもらって…
		中略
163	優	食料倉庫、中国で今、あります。日本、多分（ありません）
164	曲	你是说他把东西放在仓库里时间太长了，过期了。可是他还在卖吗？ 【訳】：倉庫で保管する時間が長くなって、賞味期限が過ぎてしまった。でも、売り続けるという意味ですか。
165	鈴木	あー、分かった。倉庫に運んで長い時間を置いて新しくないのに、そこから出して、 <u>新しくないけど、まだ食べられる、そういうこと？</u>
166	如	<u>新鮮ではないこと？</u>
167	寧	我要说的是农民的，比如说黄豆，不好，然后他依然卖到粮库，给管理者一些钱，粮库的管理者为这些钱，依然把东西收了一。然后依然还会再卖。【訳】：私が言いたかったのは農民のこと。例えば、品質が劣る大豆でも穀物倉庫へ売るだけけど、その時、役人に賄賂のお金を渡す。そうすれば、基準に合格していない大豆でも役人は、品質が悪いことを承知の上でそのまま流通させる。
168	優	<u>这太难了！</u> （【訳】：これは言いたくても、訳すのは難しいですよ！）
169	曲	（悪いものを流通させるのは）よくない。
170	如	農民たちは、うん、よくないものは、あの、倉庫の管理者が農民たちにお金をもらってよくないものを入れるのはだめですけど、農民たちのお金をもらったためー（品質が悪い大豆も倉庫に入れた。）
171	#	引き受ける。
172	鈴木	<u>よくないものは何ですか。</u>
173	蔣	倉庫に運ぶことは賛成します。（管理者が悪い豆を引き受けて倉庫に運ぶことに賛成するのは良くないこと）
174	寧	品質悪いもの。

会話例2は、寧は事前準備シートを基に農民が農産物を倉庫に収めることに関わる賄賂について話したいと考えた。しかし、粮庫（倉庫）を日本語で何と言うか分からず、仲間に助けを求めた（寧150）。そこで、如（151）は寧が言い方を共に考え、困っている倉庫という語を教えた。寧（155）は農民が良くないもの、つまり、基準に合格していない大豆を国が管理していた倉庫に売るために、倉庫の管理に賄賂を渡したと話した。しかし、この内容を全て日本語で話すことはできず、途中で母語に切り替え、切り替えた部分を日本語でどう言ったらよいのか、仲間に再び助けを求めた。寧は、事前準備シートに書いた「社会の風潮の乱れ」と「農民が倉庫の管理者に賄賂を贈る」ということを結び付け、それが食品の問題の原因となっていると考えた。ここでは、寧が日常生活の中で感じている問題意識を言語の教室に持ち込み、食品の問題にまっすぐ向き合いたいと考えていることが分かる。続いて、優（163）はこの倉庫は中国に固有なものであることを踏まえ、自ら補足説明した。曲（164）の方は、寧に確認を求めている。保管する間に賞味期限が過ぎてしまったものも売り続けるという意味なのかと尋ねた。それを聞いたことにより、鈴木（165）が寧の言いたかったことの概要を掴み、寧にこういうことかと確認する。如（166）も、寧（155）の発話の中の「よくないもの」をより明確にするため、やりとりに加わった。しかし、寧が言いたかったのは賄賂のことである。それはまだ仲間に共有されていない。そこで寧（167）は再びターンを取り、寧（155）が日本語で言いかけた内容を母語で言い直し、仲間に自分の考えをぶつけた。それを聞いて優（168）は、寧（167）が言いたい内容は社会の悪しき実情であり、日本語で語りにくいと感嘆した。それに対して如（170）は、日本語で寧が言いたい内容を代弁する。如の発話からはなかなかうまく言えない寧を何とか助けようと努力する姿勢が見られる。鈴木（172）は「よくないもの」とは何なのか、まだよく分からず、再度明確化を要求する。それに対して蔣（173）の発話を挟んで、寧（174）がより明確に品質が悪い大豆のことであると説明した。寧は、当日の振り返りシートに「仲間がお互いに協力し合い、できるだけ日本語を使うのが印象的でした。はっきり言えなかった時があったが、日本語か、中国語かを使って婉曲的に表してみた。」を書いた。寧は母語を生かして会話に役立てていたことが分かった。一方、如は振り返りシートに「みんな準備して授業に参加したので、話が続けられないことはなかった。言いたいことを日本語でどう伝えるかが分からない時があったが、どうしても伝えようとするので、一所懸命に自分が知っている言葉と文法を使って説明した。最

後に、自分が言いたいことを言うことができたのだ。」と書いた。如の振り返りから、学習者が事前準備で得た既有知識を活用し、会話を進めていたことが分かる。また、その内容を何とか伝えようと、単語や文法を懸命にフル活用していたことが読み取れる。このように、やりとりと振り返りシートから、学習者は伝えたい内容を主に日本語で話そうとしたが、日本語でうまく言語化・発音化できない場合、母語や既有知識、そして仲間の力を引き出しながら、日本語母語話者とも対等に議論に参加し、会話を進めようとしていたことが分かった。その過程で、発言者もグループの仲間も中国の社会事情に起因する問題を日本語で語るという挑戦的な内容の会話を経験した。また、「賄賂」という内容を日本語で表現していたことは、この問題の根源はどこにあるのか、深く考えようとしていたことを意味すると言えるだろう。

5-2 結果と考察

5-2-1 結果

本研究では特に内容上の事前準備に焦点を当てて、事前準備と実際の会話活動におけるやりとりへの参加の様相との関係を談話分析の手法を援用しながら質的に探った。その結果、学習者は事前準備により調べた素材をリソースとして積極的に活用することで、発話権を取り、新たな話題を提供し、仲間の力をも引き出しながら、日本語母語話者とも対等に議論に参加していたことが示された。

5-2-2 考察

以下では、この結果を話し言葉の産出過程の特徴と内容重視の日本語教育の観点から考察を加えることにする。

5-2-2-1 話し言葉の産出過程

話し言葉の産出過程は、レベルト (Levelt1989) によると、①概念化②言語化③発音化の過程として把握されるという。しかし、「第二言語の産出過程では言いたいことと言えらるることの間にはギャップがある。それゆえ、概念化の領域の活用し、言語化・発音化に十分な力を注げるようにすることの重要性が示唆される (岡崎他 2001: 78-79)」。そこで、今回の会話授業では、事前準備として、テーマに関連する事柄を調べて自分の考えを整理すること、言い換えれば概念化を促すことを課した。こうすることによって、授業中GWに参加する際、概念化に必要な力を他の二つ (言語化と発音化) に振り向けることが可能となると考えたからである。本研究の結果から、概念化が事前になされていることによって仲間とのやりとりにおいて言語化・発音化に集中できることが示された。ゆえに、房 (2011) が音声教育の実践を通じて得た事前準備が学習者の認知的活動を支えたという示唆は会話教育においても適用できると考えられる。会話授業を対象とする本研究でも、内容上の事前準備が課されることで、学習者は、自身の既有知識 (例えば、化学の知識、社会の事情) を活かし、問題に対して詳しく調べ、概念化が促されたと考えられる。このように概念化が事前に促されていたため、GWで発言する時、言語の正確さや適切さ (言語化・発音化) に気を配る余裕が生じ、言い間違いの訂正なども行われたと考えられる。考えたこと (概念化) がスムーズに言語で表現 (言語化・発音化) できたことで、学習者は、より質の高い日本語使用を体験できたと実感し、それが、肯定的な評価につながったと考えられる。

5-2-2-2 内容重視の日本語教育

今回の会話の授業では、内容重視の日本語教育の考え方を取り入れ、会話のテーマとしては生き物としての人が生きていく上で最も重要な食を取りあげ、そのテーマを予め与えて教室外で内容上の準備をさせたことにより、学習者の能動性を引き出すことができたと考えられる。それに対し、従来の会話活動では口頭によるコミュニケーションを目指して即興性と意志疎通を重視することが多い。即興性を追求するためには、準備時間を取らずにその場で話題を提示することになる。しかし、中国語母語話者は使用する日本語の正確さにも強い期待感を持っているので、会話という一形態の活動だけで実現することは難しいと楊 (2010) は述べている。今回の実践では、授業外に内容上の事前準備を設定した。事前準備では母語によるリソースを使い、母語で考えるために、思考が促され、内容は自然と高度なものとなった。その高度な内容を仲間と共有するためには、高度な日本語が必要となり、日本語の単語の選択にも注意が向くことになる。事前準備を通して考えたことを仲間に伝え、それを仲間に理解してもらうためには、その内容に見合う日本語も吟味しなければならない。学習者は、会話の授業の場で仲間と意見を交換し、自己と仲間のリソースを統合して言語と思考を発動しながら、自分が考えたことを

日本語で話すことができた。このような学習の経験が授業に対する肯定的評価につながったと考えられる。

6 示唆と今後の課題

本研究では内容上の事前準備を取り入れた内容重視の会話教育を試みた。中国の大学における会話授業への示唆を以下のようにまとめたい。第一に、学習者の既有知識を活かせる内容重視の会話を行うこと、第二に、比較的高度な内容を会話に持ち込むに当たり、学習者の負担を軽減するため、概念化を言語化・発音化から分離すること、事前に概念化を促すことで授業中は言語化と発音化に注力できるようにすることである。

今後の課題は、実践デザイン上の特徴の一つである日本語母語話者の参加に着目した分析を行うことである。

【註】

1. 中国の教育部によって制定された教育指導要領「大学日本語専攻高学年段階教育大綱2000」大連理工大学出版社
2. 既有知識とは、学習者が日常生活及び学校で学んできた知識と今まで培ってきた経験とする。
3. 真正性とは学習者達が現在もっている文法的、社会言語学的知識の言語体系の知識を総動員し、実在する受け手や潜在的受け手の影響を受けながら、相手から情報や意見を引き出し共有するという言語活動をしたり、自分の持つ言語情報に置き換えて人々に提供するという言語活動のように、どのような相手であろうと、自らのメッセージを受け止め、意味付ける存在として現実に想定できるということである。そしてメッセージを伝えることに必然性があることがauthenticな言語活動の基準と言える(町田2004)。
4. 例えば、学習者の障害発達上直面する問題、異文化の間に生じる問題や地球規模で抱えている問題など。
5. 質の高い日本語とはセンテンスの長さや文法の正しさだけでなく、自分が考えたことを日本語で表せる大学生の知的レベルを反映した日本語。
6. 対話的問題提起学習とはブラジルの成人識字教育者フレイレ(1970)の「問題提起型教育(problem-posing education)」に原型が求められる(岡崎2002)。学び手が、自分達が置かれた現実社会を自分達の言葉で対象化することで問題とその原因を探り当て、そうした問題状況を変えるために自分達ができることを他者との対話を通じて創出していく。
7. 注：文字化に使用した記号凡例 《字》：分析上特に注目する発話を示す。《中国語》：中国語を使った場合である。《()》：発話内容の補足・説明を加えて示す。《—》：語尾を伸ばす。《、》：区切り、発話が終わっていないことを示す。《。》：一発話文の終わりに句点「。」をつける。《【訳】》：中国語から日本語への翻訳文である。《#》：発話者が誰かを判断不可能部分を示す。《…》：語尾が言い淀み文法的には途中で文が切れているが、発話は終了していることを示す。《?》：疑問文の終助詞がついた疑問形式でなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話を含む。
8. 事前準備シートの例示

★事前準備は暗記ではないです！注：中国語で記入しても大丈夫です。(中国語可)

事前準備①(メモだけ書いてください。) お名前：付(太字は付が書いた内容) テーマ:食の問題

1、日常生活の中で、食品の安全かどうかを簡単に目で判断できることが何かありますか。例えば、リングがピカピカに見える時、石蠟[パラフィン]が塗ってあるのかもしれませんが。ほかには、何か目で判断できることがありますか。(たとえば、ピカピカのお米、葡萄についた白い斑点はんでん)

イチゴ、食品の腐敗を見えること

2、自分や周りの誰かが食の事件の被害に遭ったことがありますか。あるとすればどんなことが起こりましたか。黒蜜棗のこと、棗(ナツメ) ふつか 嘔吐(おうと) 胆汁、とても辛い！

3、毒食品を食べているとしたら、どんな気持ちですか。ほかの人が食べたら、どうですか

4、食品の安全を守るための教育を受けて、変わると思いませんか。食品安全は利益斗争の問題、民众利益与制造者的利益、教育水平提高了也会随之伴随出现新的更有科技含量更具欺骗性的食品。舆论、中に含む 含んでいる 欺く 法制

5、添加物は毒食品ですか。何故食品の中に添加物を入れますか。何のために、添加物を入れますか。食品添加物はどこに問題がありますか。違います。味覚、視覚、を高めるとか。果実の成熟を促すとか

6、食品に関する新聞やニュースの中であなたにとって特に印象深かった食品の事件にはどんなものがありますか。西瓜爆発 膨張(ぼうちょう) 河南 パナナの噂 催熟香蕉 パナナ成熟を促す パナナ海南 400稀釋 7元—3.5 安全担忧过滤, 舆论的不良引导 世論の不良導き 无目的(無) K T 30 氯化胺NH4CL 日本已停用, 不明危険。日本で使用を止める

7、関心を持っている食品の事件は何ですか。どうしてですか。具体的にどんなことですか、(いつ、どこ、何を起こったか、毒物の名前、どんな被害、) お互いに紹介してみてください。

西瓜爆発 膨張(ぼうちょう) 河南 催熟香蕉 パナナ成熟を促す パナナ海南

8、これらの事件は何かと関わっていますか。特徴は何ですか。自分の意見を民意と偽って強制する

9. 倉庫とは国が管理している穀物倉庫を指す。農民が生産した農産物はまず国に買い取られる。その農産物は穀物倉庫で貯蔵され、国の管理・調整の下で、国民に売られるという仕組みになっている。

【参考文献】

- Brinton, D., Snow, M. & Wesche, M. (1989). Content-based second language instruction. New York:Harper&Row
- Levelt, W.J.M (1989) Speaking: From Intention to Articulation. Cambridge University Press.
- 岡崎眸 (1994) 「内容重視の日本語教育－大学読解教室の場合－」『東京外国語大学外国語学部論集』49：pp227-244
- 岡崎眸・岡崎敏雄 (2001) 『日本語教育における学習の分析とデザイン－言語習得過程の視点から見た日本語教育－』凡人社
- 岡崎眸・岡崎敏雄 (2002) 『日本語教育におけるコミュニケーション・アプローチ』凡人社
- 秦松梅 (2012) 「中国人学習者は事前課題と日本語母語話者の参加を取り入れたグループワークによる内容重視の会話の授業をどう受け止めたか－中国の大学における日本語専攻クラスの場合－」『言語文化と日本語教育』44：pp20-30
- 長坂水晶・木田真理 (2011) 「中国の大学の日本語授業における会話指導に関する調査－中・上級レベルを対象とした教室活動の実態と教師の意識－」国際交流基金日本語教育紀要7：pp43-57
- 房賢嬉 (2011) 「持続可能性音声教育を目指すピア・モニタリング活動の可能性－対話を媒介とした言語生態の保全・育成を通して－」(未公刊) お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士論文
- 町田佳世子 (2004) 「言語教育カリキュラムにおける言語活動のauthenticity－コミュニケーション研究の視点から－」『北海道東海大学紀要』人文社会科学系16：pp133-143.
- 楊峻 (2010) 『大学の日本語授業におけるグループワークのデザイン－言語生態学を理論背景とした研究－』外文出版社